

千葉商工会議所景気動向調査

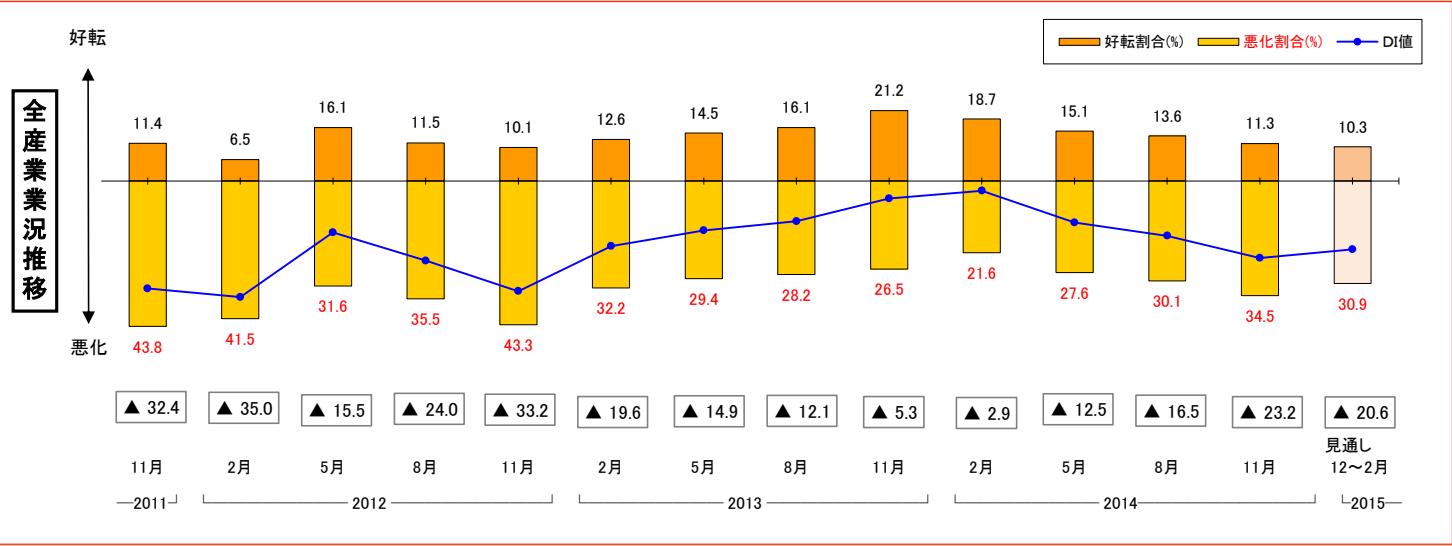
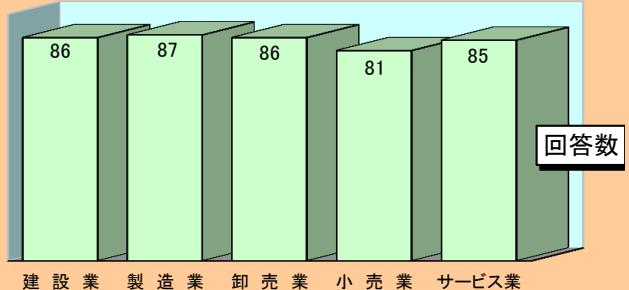
……平成26年11月期調査結果報告……

調査期間：平成26年11月13日(木)～11月25日(火)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社
(回答 425 社 回答率 85.0 %)

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)



【全体の特徴】

(▲はマイナス)

11月の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成26年8月、以下同じ)と比較して、製造業と小売業ではほぼ横ばいだったものの、他の3業種で下降した結果、全産業合計DIは6.7ポイント下降して▲23.2となり、3期連続で下降した。一方、向こう3ヶ月(12月～平成27年2月、以下同じ)の先行き見通しは、建設業、小売業、サービス業で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より2.6ポイント上昇の▲20.6となっている。

売上DIでは、前回調査と比較して、卸売業を除く4業種で下降した結果、全産業合計DIは1.7ポイント下降して▲8.1となり、3期連続で下降した。また、向こう3ヶ月の先行き見通しも、全業種で下降の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より4.9ポイント下降の▲13.9となっている。

採算DIでは、前回調査と比較して、建設業を除く4業種で下降した結果、全産業合計DIは1.7ポイント下降の▲24.1となり、3期連続で下降した。一方、向こう3ヶ月の先行き見通しは、製造業、卸売業、サービス業で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より1.7ポイント上昇の▲22.4となっている。

全体を総括すると、円安の進行により企業の負担が増している模様がうかがえ、景気感は3期連続で悪化した。なお、従業員DIは過去2番目の高い値を示して、引き続き各業種で人手不足が発生、仕入単価DIは4期連続で▲50を下回り、仕入価格の高騰が続いている模様がうかがえる。

【業種別特徴】

・建設業

前回調査と比較して、業況DIは10.2ポイント下降して▲18.6に、売上DIも4.7ポイント下降して▲5.9になったが、採算DIは5.2ポイント上昇して▲15.3となった。業況DIと売上DIは4期連続の下降、採算DIは2期ぶりの上昇となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DIは現状より上向くが、売上DIと採算DIは現状より下向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、人手不足に関して「求人をしているが応募がない」「従業員不足のため思うように仕事の受注が出来ない」「職人不足」等の声が多数寄せられた。また、受注単価に関しては「上昇しない」「1～2年前の水準」等の声があり、伸び悩んでいる模様がうかがえる。

【調査結果のポイント】 * 景気感は3期連続で悪化、円安の進行により企業の負担増

景気動向調査は インターネットで詳細をご覧いただけます。
http://www.chiba-cci.or.jp/general.php?cms_id=99

【全産業】

・製造業

前回調査と比較して、業況DIは0.6ポイント下降ながらほぼ横ばいの▲12.8となったが、売上DIは2.3ポイント下降して▲2.3に、採算DIも1.7ポイント下降して▲19.0となった。業況DIは3期連続、売上DIと採算DIは2期連続の下降となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DIは現状よりも下向くが、採算DIは現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、円安進行の影響に関して「原材料単価の上昇で厳しい」といった旨の声が複数寄せられ、「円安は行き過ぎだ」との声もあった。消費増税の影響に関しては「引き上げの影響はじわじわ実感している」との声や、税率10%への引き上げ延期は「ありがたい」との声もあった。

・卸売業

前回調査と比較して、業況DIは6.4ポイント下降して▲25.9に、採算DIも4.5ポイント下降して▲31.0となったが、売上DIは3.3ポイント上昇して▲3.6となった。業況DIと採算DIは3期連続の下降、売上DIは3期ぶりの上昇となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI、売上DIは現状よりも下向くが、採算DIは現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、円安の進行に関して「輸入コストが高騰し採算悪化」「仕入先がアメリカのため非常に苦戦」「円安でも海外市場と比較して値引き要求される」等厳しい状況を訴える声が多数寄せられた。さらには円安が「消費者心理を押し下げている」といった指摘もあった。

・小売業

前回調査と比較して、業況DIは0.7ポイント上昇ながらほぼ横ばいの▲40.8となったが、売上DIは3.1ポイント下降して▲29.6に、採算DIも3.4ポイント下降して▲39.6となった。業況DIは3期ぶりの上昇、売上DI、採算DIは2期ぶりの下降となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DIは上向き、売上DIは下向き、採算DIは横ばいとの見方になっている。

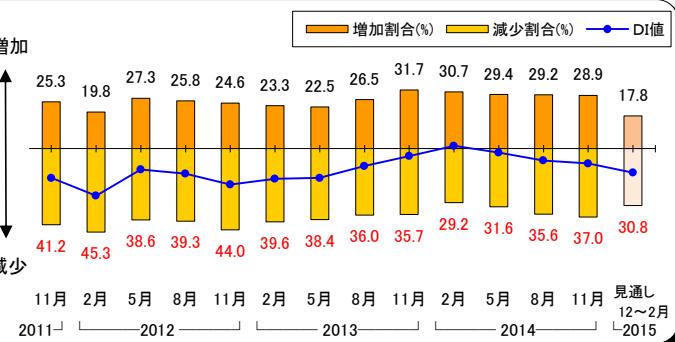
調査回答企業からは、消費増税後の状況について「増税前駆け込み需要の反動からの回復が鈍い」「増税後は売上減少が止まらない」等の声、円安進行に関しても「原材料の値上げが継続採算面が厳しい」「ドル建て原油価格が下がっても円安で仕入額が下がらず苦戦」等の厳しい状況を訴える声が多数寄せられた。

・サービス業

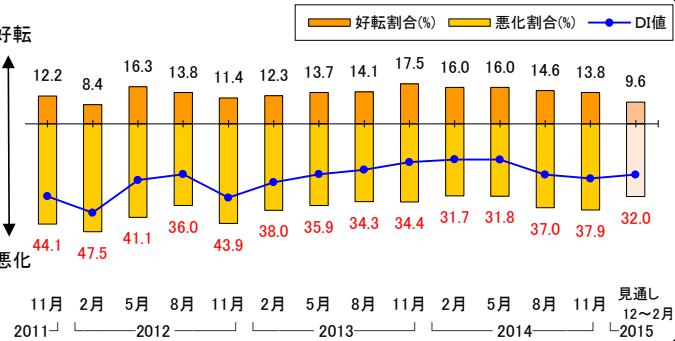
前回調査と比較して、業況DIは17.7ポイント下降して▲18.1に、売上DIも2.4ポイント下降して▲2.4に、採算DIも4.8ポイント下降して▲16.5となった。業況DI、売上DI、採算DIとも2期ぶりの下降となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DIと採算DIは現状より上向くが、売上DIは現状よりも下向くとの見方になっている。

調査回答企業からは「技術者の採用が困難」「若い層の人材不足」「アルバイト等の質が低下」「業界団体が海外からの研修生受入体制を構築の模様」といった雇用に関する声が複数寄せられた。さらには円安の進行に伴う仕入価格高騰による利益減少や、消費者の購買意欲減少を指摘する声等も寄せられた。

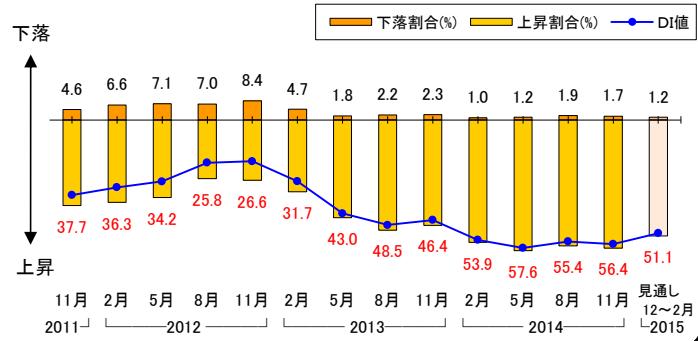
売上推移



採算推移



仕入単価推移



従業員推移



資金繰り推移

